

【指導者向け】川遊びの安全管理（セイフティ トーク資料）

2024.7 国立曽爾青少年自然の家

自然の川は美しいですが、管理されたプールとは違い、日々状況が変わっています。安心安全に行っていただくために以下の点を必ずご確認ください。

1. 実施判断について

【活動開始直前に以下に一つでも該当する場合は実施不可】

- ・気温 22℃未満
- ・水温 18℃未満
- ・水深 膝（約 50cm）以上
- ・水質 濁っている
- ・降水量 3mm/時以上
- ・雷 自然の家周辺で雷が鳴っている場合
- ・警報 大雨、洪水、暴風警報が発令されている
- ・雷注意報が発令され、気象庁「雷ナウキャスト」で活動度が2以上の場合
- ・WBGT（暑さ指数）31 以上の場合

【直ちに活動を中止し、帰所する】

- ・気象が急変し（上記実施判断基準）、活動の実施が困難となる場合（自然の家から連絡）

確認しました

2. 持ち物

・参加者

川遊びの服装（ライフジャケット(貸出も可)、水着、ラッシュガード等長袖、運動靴またはかかとが固定できるウォーターシューズ、帽子)、十分な水分（スポーツ飲料等塩分を含むものが望ましい）、着替え、タオル

・指導者

救急用品セット（体温計、経口補水液、虫よけスプレー、虫刺され軟膏を含む）、緊急連絡用携帯電話

・自然の家から貸出

ライフジャケット、無線機、救命ロープ（スローバッグ）、救命浮き輪、保温用毛布、ホイッスル、メガホン、水温計、WBGT 測定器、ヘルメット（希望者のみ）

確認しました

3. 事前準備（指導者）

- ・指導者は、事前に活動場所の下見を行い、所員からセイフティークを受ける。
- ・参加者の体調を把握し、参加者、待機者（引率者を含む）を決定する。
- ・川遊び実施届（別紙）を活動開始前に提出する。

確認しました

4. 当日の流れ

①活動可否の決定

活動開始 1 時間前に事務室で団体代表者と打ち合わせを行い決定する。

②物品の借用

活動開始時刻（午前は 9 時以降、午後は 13 時以降）にゆうやけ広場に集合し、ライフジャ

ケット、救命ロープ等の借用を受け、使用方法や危険物・場所等の説明を受ける。なお、ライフジャケットにはサイズがあるので、使用する参加者全員が集合する。

③活動場所への移動

川遊び場まで片道徒歩で1時間程度、バスは10分程度

別紙1の地図を参考に移動する。(駐車できる場所が限られており、緊急車両のみ駐車が可能。)

④活動場所到着後

・引率者(指導者)

別紙2の遊泳可能エリアを確認し(子どものひざ下を目安)、指導者を配置(陸上監視員1名、救命浮き輪係1名、救命ロープ係2名(1名は最下流))する。陸上監視員、最下流救命ロープ係は必須とする。

入水する前に、活動場所の確認、遊び方、指導者の配置を確認し、参加者に伝える。

・参加者

準備運動を行い、活動範囲、人数確認の方法(ボディシステム)、遊び方のルールを理解する。

⑤活動中

熱中症(低体温症)予防のため、30分に一度は一斉に水から上がり、休憩(水分補給、健康観察)を行い、気分が悪くなった場合は、適切に対応し、入水しないようにする。なお、休憩時、活動終了時に人数確認(ボディシステム)を実施する。

なお、飛び込み、投石等は禁止する。岩のぬめり等の自然物にも注意する。

⑥活動終了後

自然の家に戻所後、ゆうやけ広場の水栓を用いて借用物品の洗浄、返却を、職員の指示のもとに行う。なお、天候に関わらず川遊び直後の入浴はできない。通常時間の入浴となる。

確認しました

5. 緊急時対応について

①団体の引率責任者は、現場の状況を冷静に判断し、人命救助を第一に考え、活動の中止も含めた的確な判断を行う。緊急を要する場合は、119番通報し、救助要請を行う。

②引率責任者から無線機により事務室へ連絡し、事務室の指示に従う。

③引率責任者は、負傷者等の救助を行うとともに、負傷者以外の参加者に活動を中止し、安全な場所へ避難するよう誘導する。

確認しました